

5-2. 合理化方策（案2）の検討・検証

<見直しイメージ>

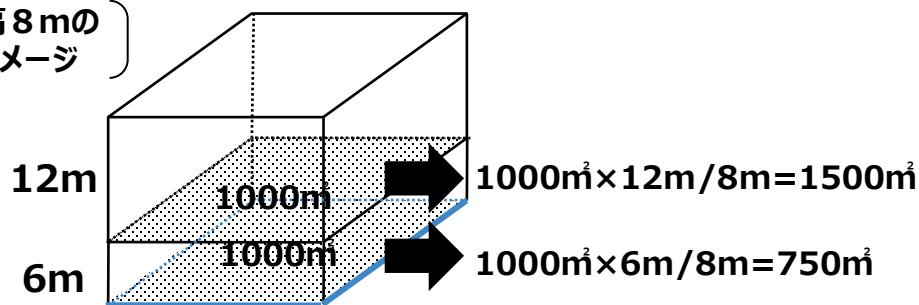
倉庫形態の変化を踏まえ、倉庫の形態によらない収蔵可能容量に基づいた容積率規制に見直す。

- 倉庫の容積率算定上の床面積について、以下の特別な方法で算定する。

$$\text{倉庫の床面積 (m}^2\text{)} = \frac{\text{倉庫の実容積 (床面積} \times \text{階高) (m}^3\text{)}}{\text{基準階高※ (m)}}$$

※倉庫の建築特性に応じて国が定める数値

（基準階高 8 m の
場合のイメージ）



〈補足〉

倉庫の保存可能な荷物量（容量）に直接関係する指標は、「梁下有効高さ」であるが、実務上の取扱いやすさを踏まえ、建築基準法体系では一般に使われている「階高」を基準とする算定方法とした。